

オスマン帝国の衰退

☆オスマン帝国：トルコ人の国王がスナ派の教主を兼ね、多くの異民族を抱える。

1683 第2次ウィーン包囲の失敗⇒カルロヴィッツ条約(1699)：奥にハンガリーを割譲。

- ・アフメト3世：23代(1703-30)。
1 _____ 時代：宮廷文化の爛熟。

1774 クリム=ハン国を露に奪われる。

- ・セリム3世：28代(89-) 洋式軍隊を創設。
⇒親衛隊(イエニチェリ)が政治介入、改革挫折。
- ・マフムト2世：30代(1808-)

1821-29 ギリシア独立戦争：英仏露が介入。

1826 4 _____ 全廃：軍の近代化。

1830- 仏(シャルル10世)のアルジェリア出兵。

1831-40 7 _____ 戦争：エジプトが反乱、シリアを占領。
⇒仏がエジプトを、露がオスマンを支援⇒両国の進出を恐れる英が介入。

1838 英=トルコ通商条約：不平等条約。

- ・8 _____：31代スルタン。

☆9 _____ (恩恵改革)。

：ギョルハネ勅令(1839)で開始。

軍事・産業・行政・司法の近代化。

1853- クリミア戦争：英・仏の介入で露軍を撃退。

⇒財政破綻。徴税権を担保に列強から借款。

- ・10 _____：34代スルタン。

改革派の宰相11 _____ =パシャ。

1876 11 _____ 憲法を制定。

・英型立憲君主政、アジア初の近代憲法。

1877- 12 _____ 戦争：再び露が侵攻。

⇒スルタンは憲法を停止、専制を復活。

☆13 _____：立憲派の秘密結社。

⇒軍の内部に拡大。専制打倒を目指す。

☆アラビア半島：アラブ人の部族国家が抗争。

—1744-1818 2 _____ 王国—
復古主義のイブン=アブドゥル=2 _____ が
ネジド地方の豪族3 _____ 家と結ぶ。
神秘主義、聖者崇拜、オスマン支配を排撃。

☆エジプト：オスマン領。マムルーク諸侯が統治。

1798- 5 _____ のエジプト出兵。

- ・6 _____：総督(1805-)

マムルークを全廃、軍の近代化。

1840 ロンドン四国条約：英・仏・露・普。

①総督世襲を認め、シリアを放棄させる。

②エジプトと列強との不平等条約。

- ・イスマーイール：5代総督(1863-)

1869 スエズ運河開通：仏人レセップス。

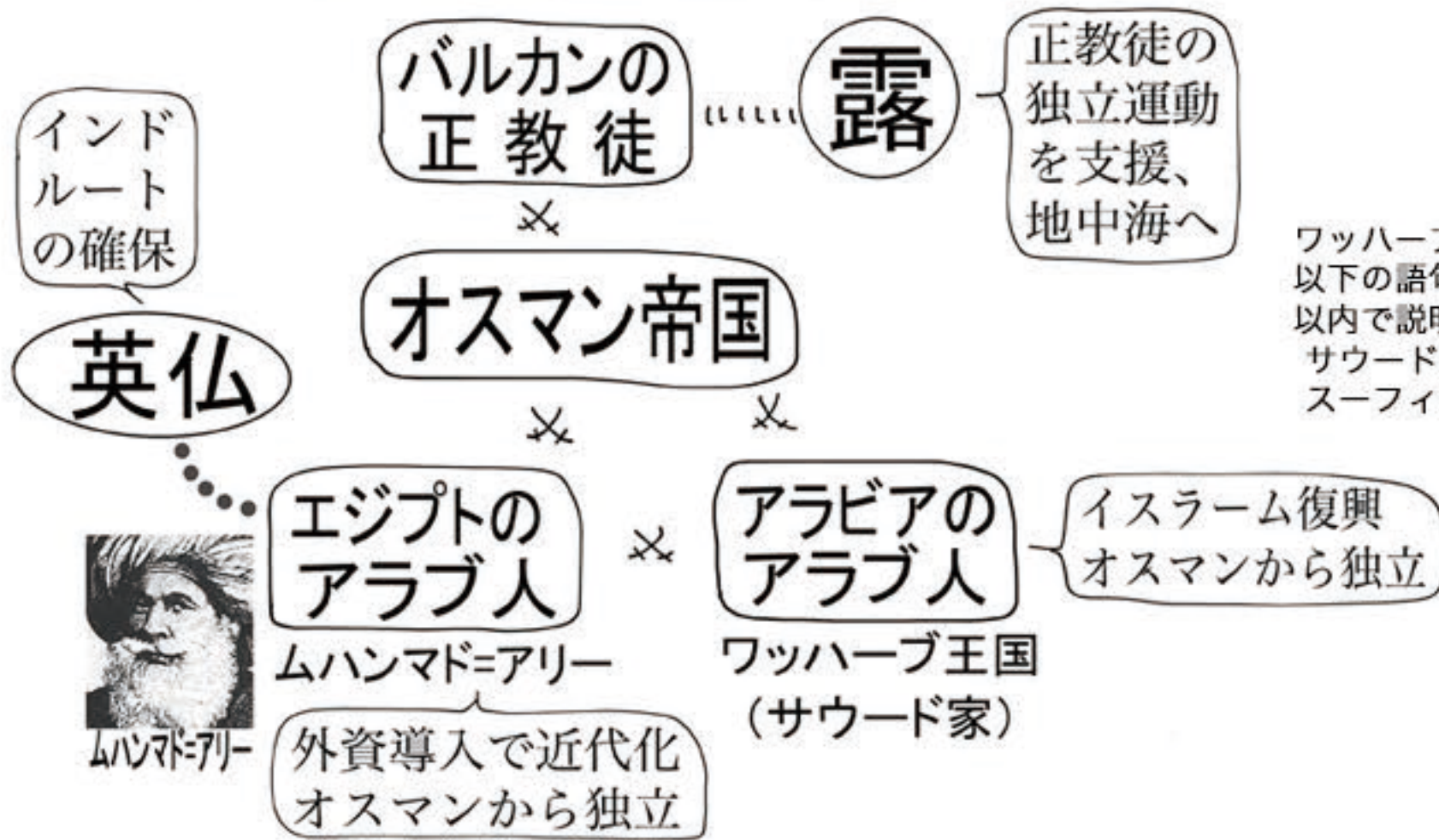
⇒国家財政の破綻。英に株式を売却(75)。

⇒英・仏による財政管理⇒ウラビー革命(81)



- 【解答】1 チューリップ 2 ワッハーブ 3 サウード
4 イェニチェリ 5 ナポレオン 6 ムハンマド=アリー
7 エジプト・トルコ 8 アブデュルメジト1世
9 タンジマート 10 アブデュルハミト2世
11 ミドハト 12 露土戦争 13 青年トルコ

オスマン帝国の解体



ワッハーブ派について、以下の語句を用いて90字以内で説明しなさい。
サウード家 シャリーア スーフィズム



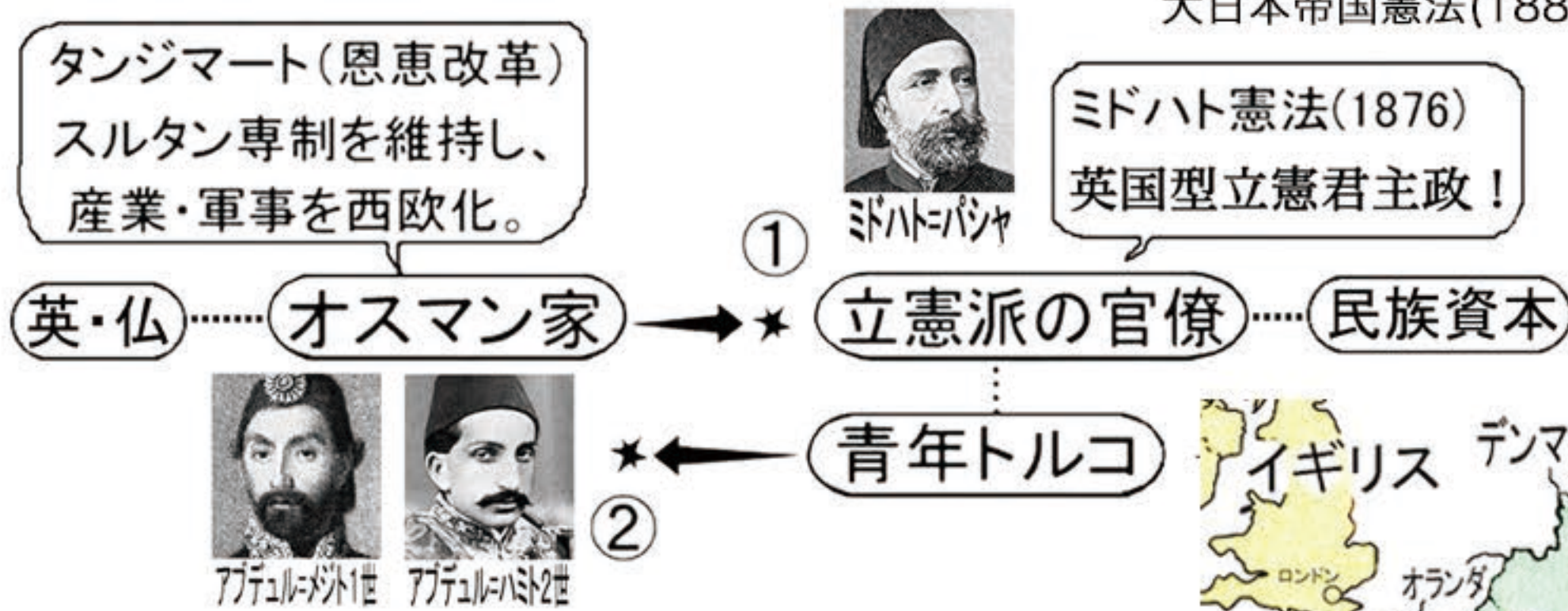
▲ エルトウルル号(1863進水)
日本への親善使節を派遣するが、その帰途、紀伊半島沖で嵐のため沈没(1890)。



▲ ミドハト憲法の発布(1876)

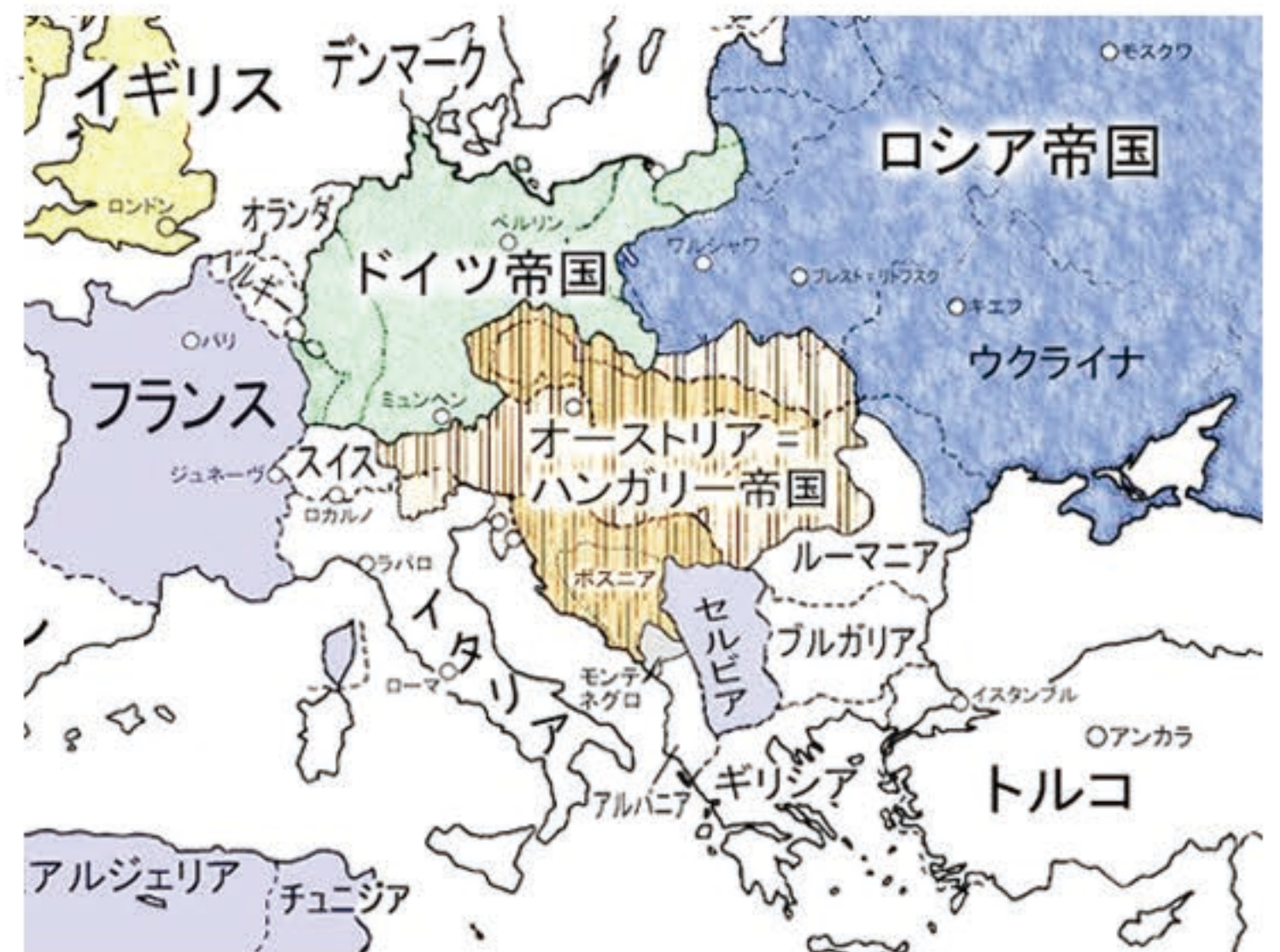
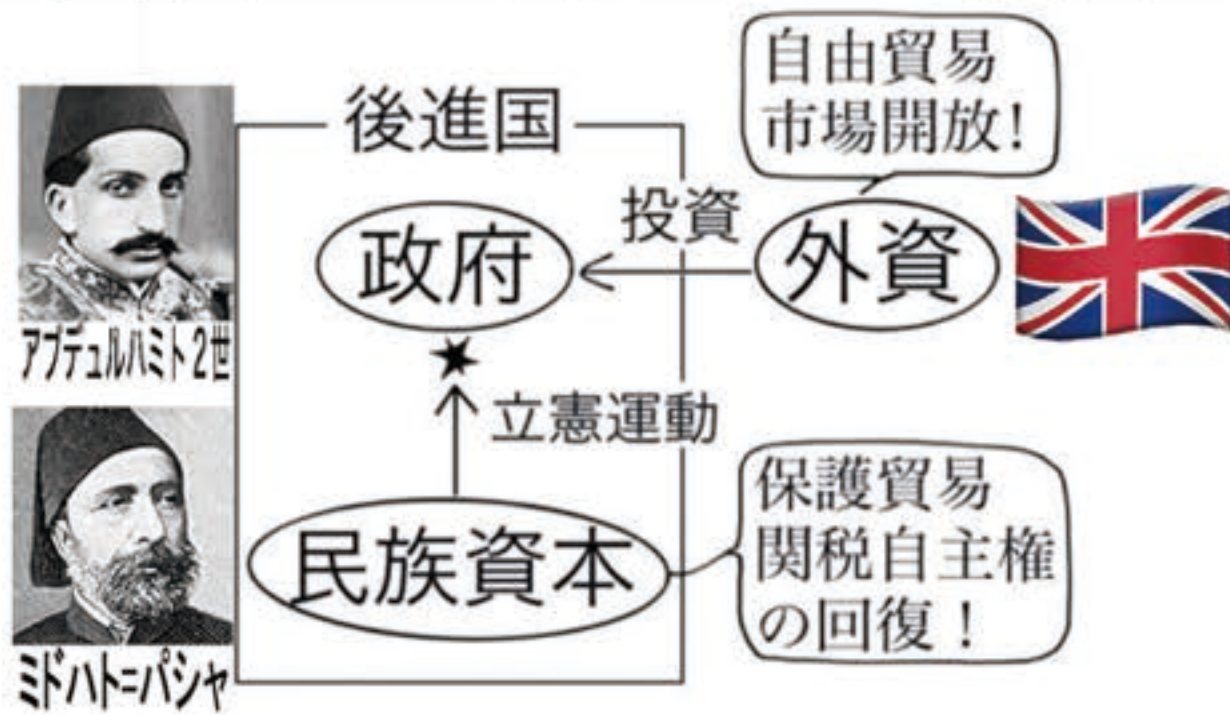
問 第一次世界大戦までのオスマン帝国における近代化について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
エジプト 露土戦争 日露戦争

オスマン帝国の改革



大日本帝国憲法(1889)

- ① ミドハト憲法停止(1878) ← 露土戦争
- ② 青年トルコ革命(1908) ← 日露戦争



オスマン帝国の崩壊

第一次世界大戦から帝政崩壊までのトルコの歴史について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
パン=トルコ主義 アナトリア

オスマン帝国を分割する

英・仏

オスマン家

青年トルコ政権

第一次世界大戦 敗戦で崩壊

③

① セーヴル条約(1920)

② トルコ革命(1919-23)

③ ローザンヌ条約(1923)



スルタン制廃止
アナトリアを奪回
トルコ人だけの
民族国家を再建



セーヴル条約(1920)

オスマン帝国崩壊とアラブ独立

- **アブデュル=ハミト2世**：憲法停止、専制。露土戦争で敗北。89- 独、バグダード鉄道敷設。

1908 ¹ 革命：青年将校がサロニカで蜂起◀ 1904- 日露戦争。

⇒アブデュル=ハミト2世退位。 ² 憲法復活、国会開設。

12-13 バルカン戦争で大敗⇒トルコ民族主義の高揚。

☆ ³ 主義：露領内のトルコ民族との連帯。 1914- 第一次世界大戦。

14- 大戦で独塊と同盟⇒アラブの反乱。英人ロレンスが指揮。◀ 15 ¹⁴

⇒英・仏がイスタンブルを占領。青年トルコ政権崩壊。 協定。

20 サン=レモ会議：英・仏がオスマン帝国分割で合意。◀ 16 サイクス・ピコ協定。

20 ⁴ 条約：連合軍とスルタン政府との講和。

⇒英・仏・伊・リビアによる小アジアの分割。不平等条約。

(• 仏の委任統治領⇒シリア・レバノン。

• 英の委任統治領⇒パレスティナ・ヨルダン・イラク。◀ 18- ¹⁵ 王国

19- ⁵ 軍が小アジアの ⁶ を占領。

20-22 ⁷ がアンカラ政府を樹立、領土奪回。

22 トルコ革命： ⁸ 制廃止、オスマン帝国滅亡。

23 ⁹ 条約：連合軍との新たな講和。

⇒セーヴル条約を破棄。アナトリア奪回、不平等条約撤廃。

23- トルコ共和国 (首都： ¹⁰)

• **ムスタファ=ケマル**：大統領(23-) ¹¹ の称号。

24 ¹² 制廃止：政教分離。イスラム法の廃止。

⇒婦人解放、文字革命 (アラビア文字⇒ ¹³ 文字)

• ¹⁶ : ハーシム家。
メッカの ^{シャリーフ} 首長。カリフを称す。

▶ 21-イラク王国

• **ファイサル**：フサインの子。

21 英保護下、王位に。

32 独立。英軍は駐留。

01- ネジド王国

• ¹⁷

: リヤドの豪族。

ワッハーブ派。

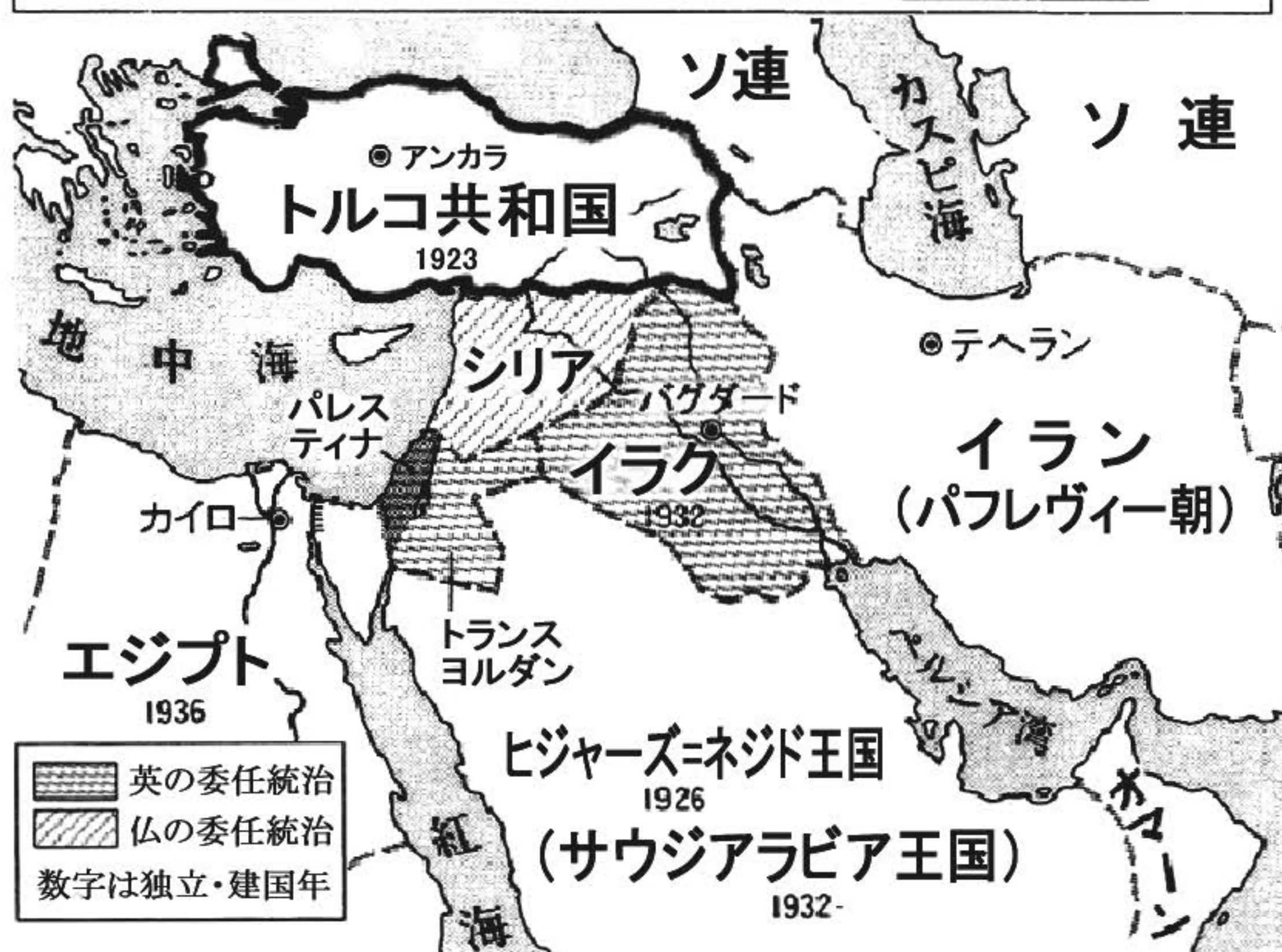
⇒フサインと対立。

☆ ◀ 24 メッカ攻略。

26- ヒジャーズ=ネジド王国

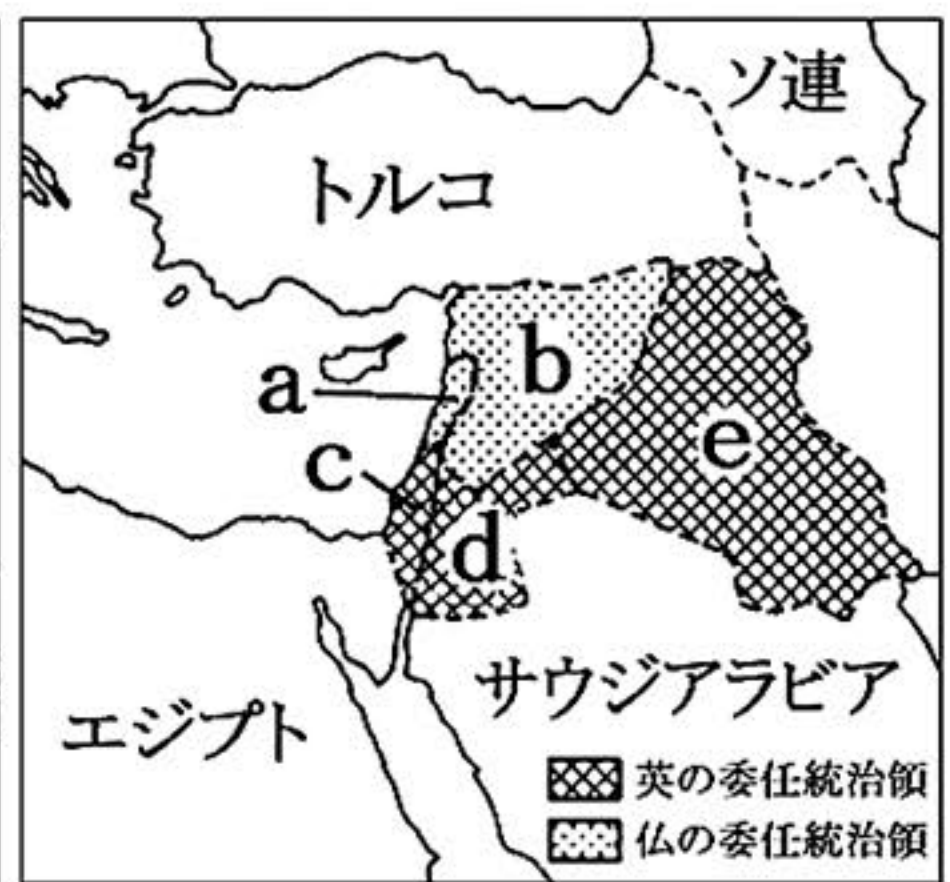
32 ¹⁸ 王国。

38 油田の発見。



▲ ファイサル王子とロレンス(右)

オスマン帝国の分割



(史料1) ¹ 協定(1915)
イギリスは…メッカの太守によって要求されている範囲内で、すべての地域におけるアラブ人の独立を認め、これを支援する用意がある。…アラブ側は、イギリスだけに助言と指導を仰ぐ。

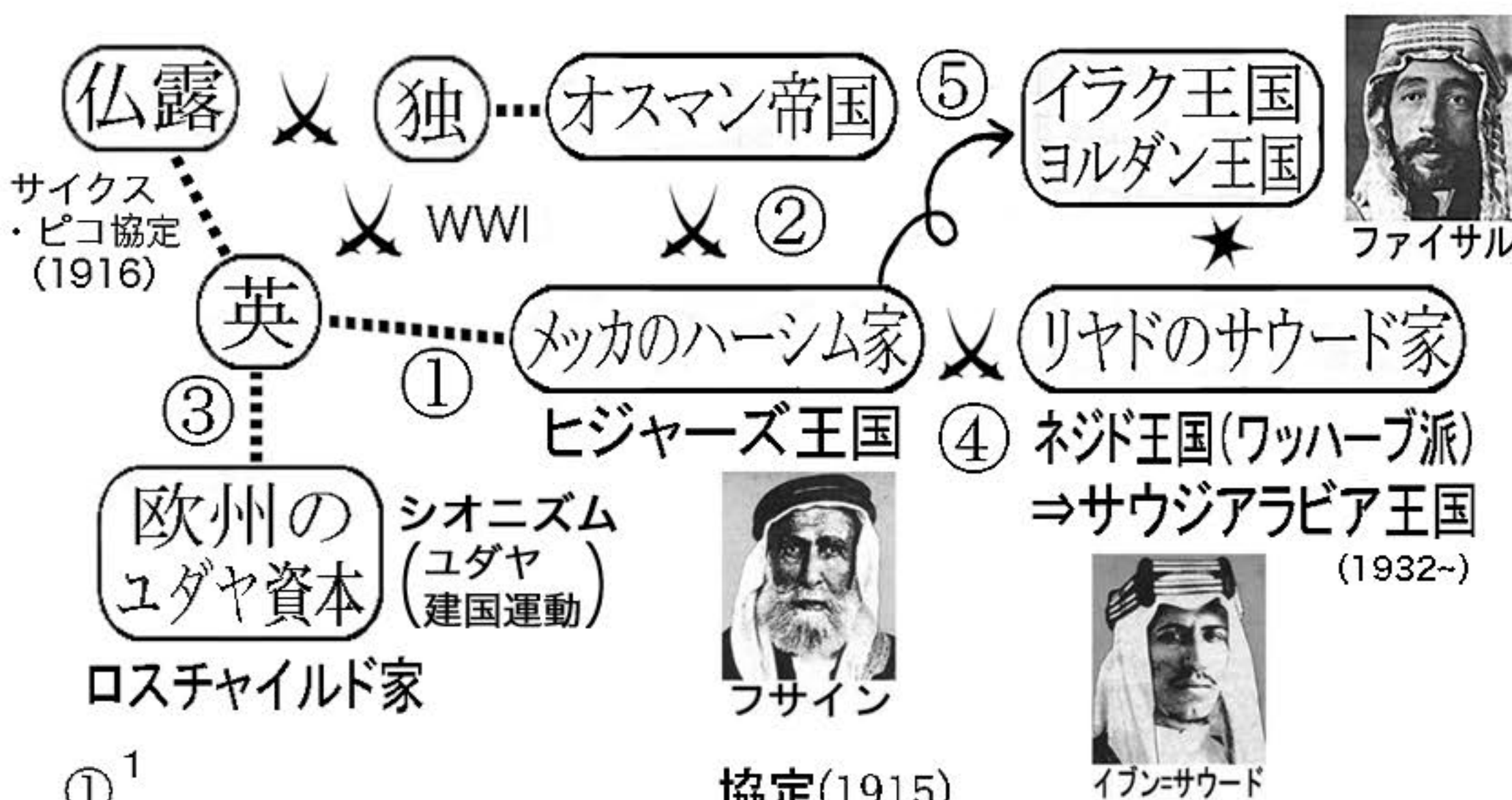
(史料2) ² 協定(1916)
1. 英・仏は、アラブ首長の宗主権のもとに…アラブ国家あるいはアラブ連合国家を承認し、保護する用意がある。A地域については仏が、B地域については英が、事業および投資の優先権を有す。
2. 青色地域については仏が、赤色地域については英が…直接的、間接的な統治および管理を行う。
3. 茶色地域については、国際管理が行われる。

a レバノン b シリア
c パレスティナ d トランスヨルダン
e イラク

(史料3) ³ 宣言(1917)
国王陛下の政府は、パレスチナにおけるユダヤ人の民族的故郷(National Home)の設立を好ましく考えており、この目的の達成を円滑にするために、最善の努力を行うつもりです。貴下(注)がこの宣言を、シオニスト連盟にお知らせいただければ、光栄に存じます。(注) 英国シオニスト連盟会長W.ロスチャイルド

(解答) 1. フサイン・マクマホン
2. サイクス・ピコ 3. バルフォア

※「フサイン」は「フセイン」でも可。アラビア語の母音はa・i・uしかなく、正確には「フサイン」となる。



第一次世界大戦以後のアラブ独立運動について、以下の語句を用いて120字以内で説明しなさい。
マクマホン イブン=サウード

オスマン崩壊とアラブ独立

- 1 青年トルコ
- 2 ミドハト
- 3 パン=トルコ
- 4 セーヴル
- 5 ギリシア 6 イズミル
- 7 ムスタファ=ケマル (ケマル=パシヤ)
- 8 スルタン
- 9 ローザンヌ
- 10 アンカラ
- 11 アタチュルク
- 12 カリフ 13 ラテン
- 14 フサイン・マクマホン
- 15 ヒジャーズ 16 フサイン
- 17 イブン=サウード
- 18 サウジアラビア

① ¹ 協定(1915)

② アラブの反乱
(英人将校²が指揮)

③ ³ 宣言(1917)

④ サウード家がメッカ攻略。
⑤ フサインの2子を王に擁立。
⇒英の委任統治領に。

(解答) 1 フサイン・マクマホン
2 ロレンス 3 バルフォア



▲ イブン=サウードとF.ローズヴェルト
サウード家は米系石油資本に油田開発権を与え、米国の同盟国となった。

イラン・アフガンの植民地化

□ トルコ系

1722 アフガン人が侵攻、サファヴィー朝崩壊。★

アフガニスタン

(イラン系パシュトゥーン人)

1736-アフシャール朝/1750- ザンド朝

・ナーディル=シャー：トルコ系武将。サファヴィー朝を篡奪。

ムガル帝国へ遠征

★ 1739 デリー攻略。

1796-¹ _____ 朝(首都:² _____)

・スンナ派王朝とシーア派住民が対立。露が侵攻(26-)

1828 ³ _____ 条約：露にアルメニア割譲。

37 英との通商条約：治外法権承認⇨英製品の流入。

48- ⁴ _____ 教徒の乱：シーア派系の教団が反乱。91 ⁵ _____ =ボイコット運動：英企業の専売権に抗議。：パン=イスラーム主義者⁶ _____ が指導。1905- ⁷ _____ 革命：国会を開設(06)

⇨国王との内戦⇨露軍が侵攻。国会停止。

07 ⁸ _____ 協商：イラン北部を露、

東南部とアフガニスタンを英の勢力圏に。

14- 第一次世界大戦⇨ロシア革命で、露が撤退。

1925- ⁹ _____ 朝(首都：テヘラン)・¹⁰ _____ ：軍事クーデタで実権(21)⇨国王。

⇨女性解放。不平等条約の破棄。国名をイランに。

1747- ドゥッラーニー朝

・アフマド=ハーン：アフガン最初の^{シャー}国王。

1826- バーラクザイ朝

1838- 第1次アフガン戦争

：英軍を撃退⇨露に接近。

1878 第2次アフガン戦争

⇨英に敗北、保護国に。

1919 第3次アフガン戦争

：英領インドに侵攻。

⇨英から外交権奪回、独立。

(ラウルピンディー条約)

英領
イン
ド帝
国12代隠れ
イマーム

バーブ(門)

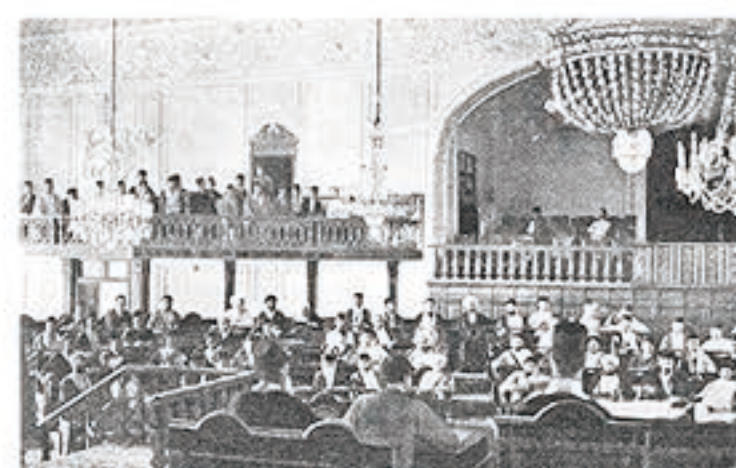
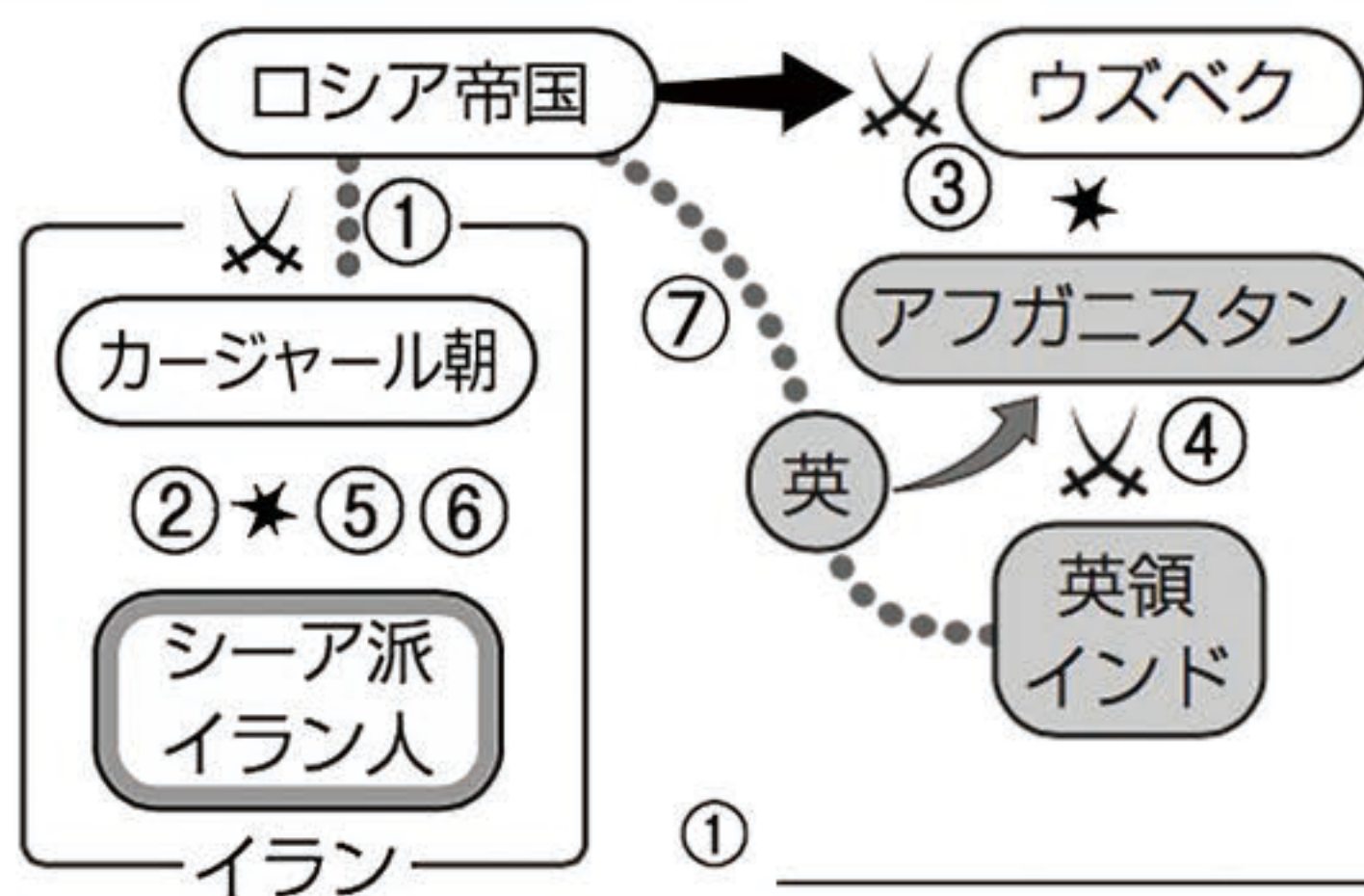
信徒

サイイド=アリー
=ムハンマドバーブ教団の指導者。
信徒から救世主と見な
され、カージャール朝
に処刑されたことが、
バーブ教徒の乱を招く。

アフガーニー

シーア派の法学者。
パン=イスラーム主義
を唱え、オスマン帝国
スルタンに面会を求め
るが、幽閉される。

レザー=ハーン

民族主義者の軍人。
ロシア革命に乗じて
クーデタに成功し、
法学者に推されて
王(シャー)となる。
(パフレヴィー朝)

▲イラン最初の議会(1906)

- ① _____ 条約(1828)
- ② _____ 教徒の乱(1848~50)
- ③ _____ 3ハン国併合、保護国化(-76)
- ④ _____ 戦争(1878)
- ⑤ _____ 運動(1891)
- ⑥ _____ 革命(1905~11)
- ⑦ 英露協商(1907)

- ① トルコマンチャーイ
- ② バーブ ③ ウズベク
- ④ 第2次アフガン
- ⑤ タバコ=ボイコット
- ⑥ イラン立憲

問 イランの近代化について、
以下の語句を用いて120字
以内で説明しなさい。
アフガーニー 英露協商
レザー=ハーン

19世紀の英露対立 the Great Game



イラン・アフガン植民地化

- | | |
|-------------|------------|
| 1 カージャール | 6 アフガーニー |
| 2 テヘラン | 7 立憲革命 |
| 3 トルコマンチャーイ | 8 英露 |
| 4 バーブ教徒 | 9 パフレヴィー |
| 5 タバコ | 10 レザー=ハーン |



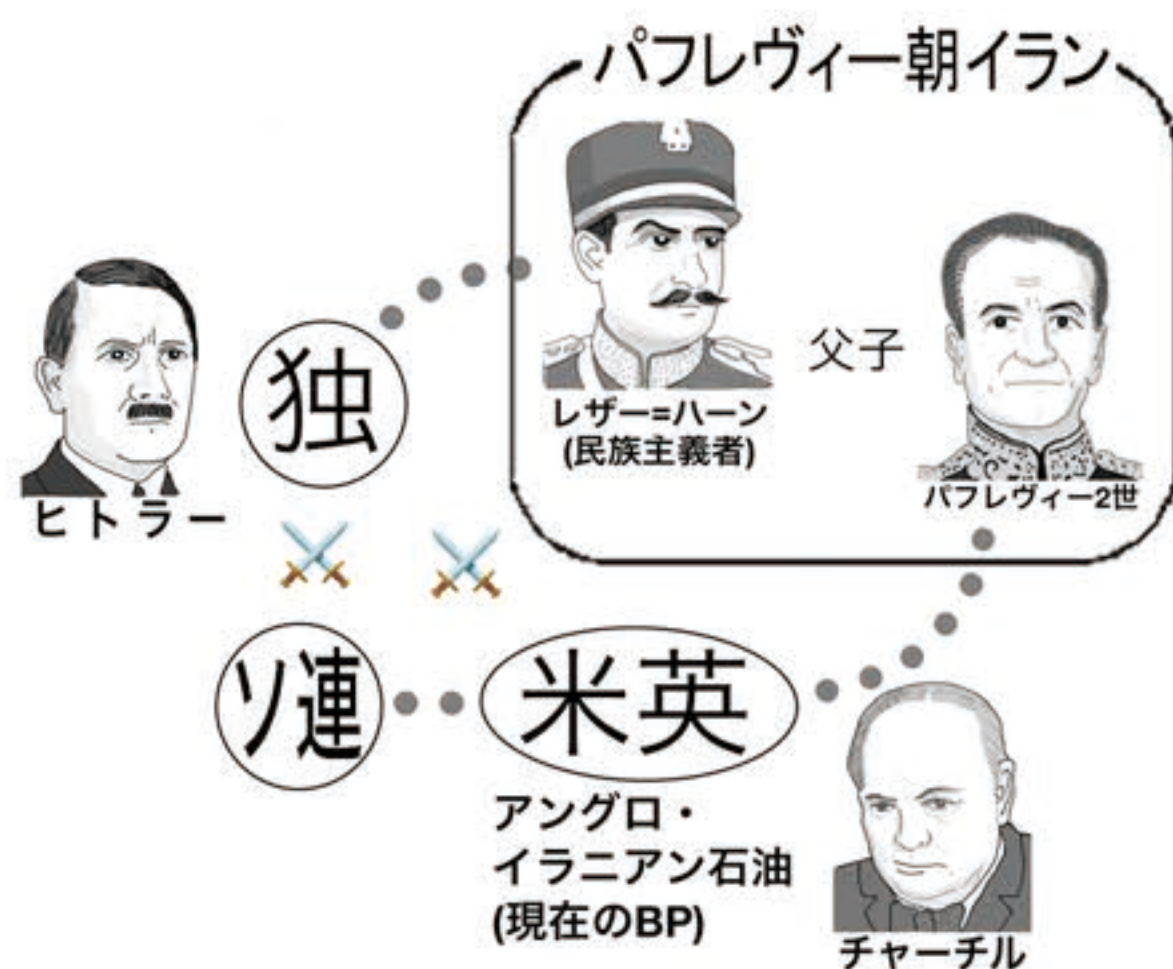
第2次アフガン戦争(1878-81)
…英軍がアフガニスタンを占領、
バーラクザイ朝を保護国化した。



ケマルとレザー



キプリング『少年キム』
…英領インド生まれの
白人孤児が主人公。
Great Gameの言葉
は本書で普及した。



テヘラン会談(1943.11月)
…対ドイツの第二戦線問題を協議。
当時イランは英軍占領下にあった。

インドの植民地化

1526-1858 ムガル帝国(首都:デリー⇒アグラ⇒デリー)

・¹ _____ : 6代(1658-) 英東インド会社が進出。⇒三大拠点² _____ ・³ _____ ・⁴ _____。⇒仏領⁵ _____ ・⁶ _____ と抗争。

1707 アウラングゼーブ帝の死。ヒンドゥー諸侯の反乱、太守の独立。

1708- マラーター同盟

・デカン高原のヒンドゥー諸侯。
ムガル帝国から独立。

1761 デリー攻略に失敗。

⇒ムガル帝国も威信失墜。

帝国は首都デリー周辺
だけの地方政権に転落。1744- ⁷ _____戦争 ← 1740⁸ _____

継承戦争。

: 英が仏の総督デュプレクスを破る。

1757 ⁹ _____ の戦い ← 1756- ¹⁰ _____

戦争。

(フレンチ・インディアン戦争)

: ¹¹ _____ 率いる英軍が、仏・¹² _____ 太守を破る。

⇒英東インド会社は、

¹³ _____ 権を得る。1767- ¹⁴ _____ 戦争: 英が南インドを征服。1775- ¹⁵ _____ 戦争: 英がデカン高原を征服。

1814- ネパール征服: 英の保護国とする。

1815 ¹⁶ _____ 併合: ウィーン会議で蘭から。1845-49 ¹⁷ _____ 戦争: パンジャブ地方を併合。☆¹⁸ _____ 制: ベンガルの地主に徴税義務。

☆ライヤットワリー制: 南インドでは農民に納税義務。

☆¹⁹ _____ : 商業的大農園。茶・藍・アヘン栽培。

☆インド貿易の自由化: 産業資本家が要求。東インド会社の

²⁰ _____ 廃止(13)⇒インドでの²¹ _____ 停止(33)

⇒英製品の流入で手工業は壊滅。重税による農村の荒廃。

1857- インド大反乱: 傭兵(²² _____)反乱に民衆が合流。

⇒デリー占領⇒ムガル皇帝バハードウル=シャー2世を擁立。

⇒英軍の反撃、皇帝逮捕、ビルマ流刑⇒ムガル帝国滅亡。

⇒東インド会社を²³ _____ (58)。英本国の直接統治へ。1877- ²⁴ _____ 帝国 (実質的には1858-)・英首相²⁵ _____ がヴィクトリア女王を皇帝に擁立。

(・直轄領: カルカッタのインド総督が直接統治。

・²⁶ _____ : 総督が 550の藩王を通じて間接統治。

1623 アンボイナ事件

: モルッカ諸島で英蘭が抗争。

英はインドに撤退。

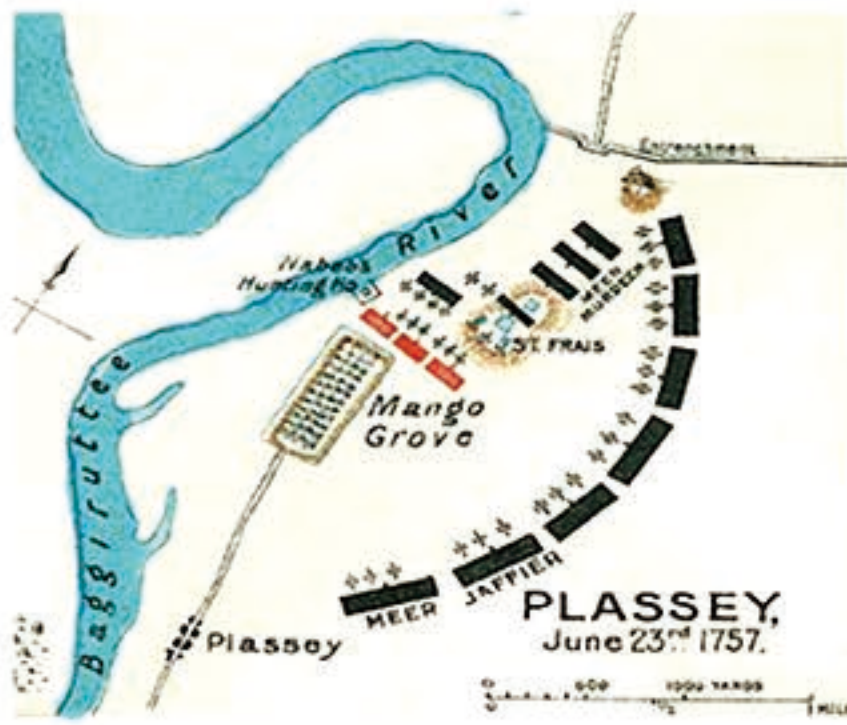


インドの植民地化

¹ アウラングゼーブ² ボンベイ³ マドラス⁴ カルカッタ⁵ ポンディシェリ⁶ シャンデルナゴル⁷ カーナティック⁸ オーストリア⁹ プラッシー¹⁰ 七年¹¹ クライヴ¹² ベンガル¹³ 徴税¹⁴ マイソール¹⁵ マラータ¹⁶ セイロン

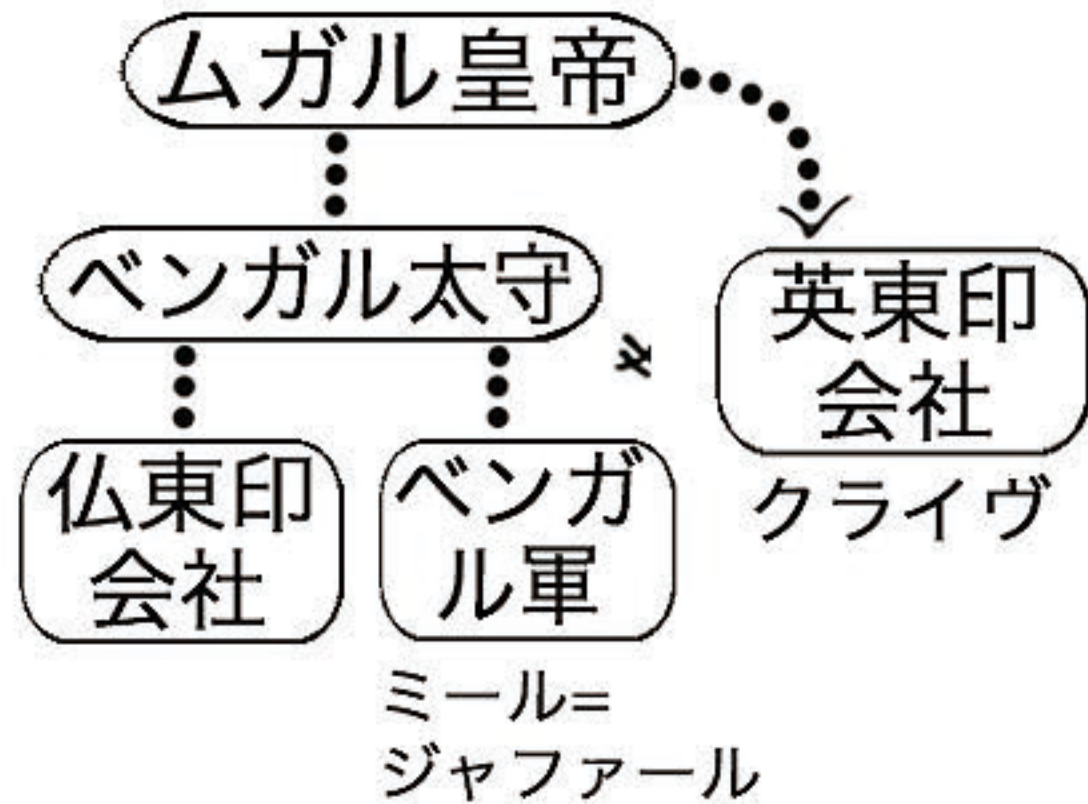
(スリランカ)

¹⁷ シク¹⁸ ザミンダーリー¹⁹ プランテーション²⁰ (インド)貿易独占権²¹ 商業活動²² シパーヒー²³ 解散²⁴ インド²⁵ ディズレーリ²⁶ 藩王国

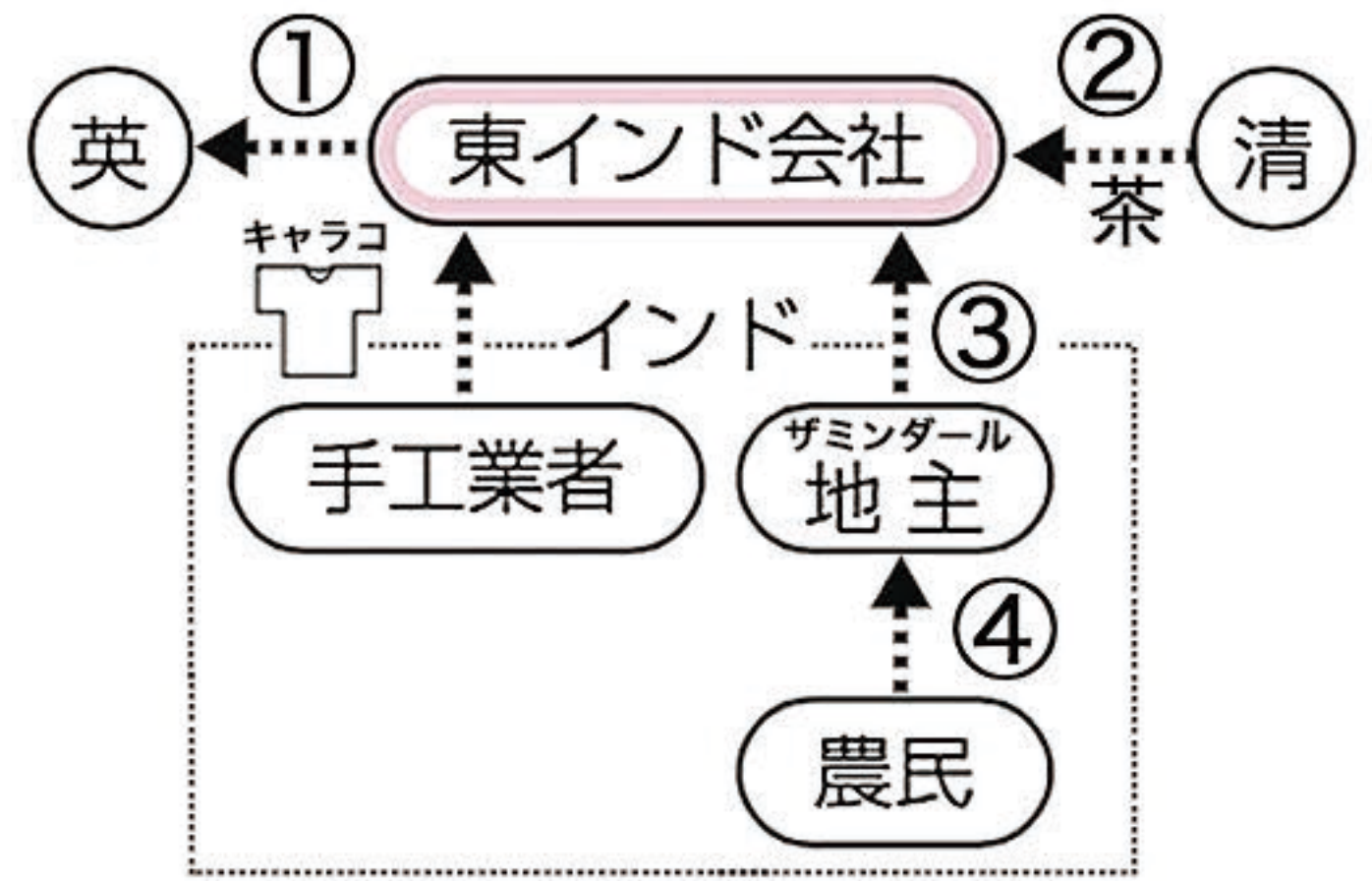


▲ クライヴと会見する
ミール=ジャファール

プラッシーの戦い(1757)



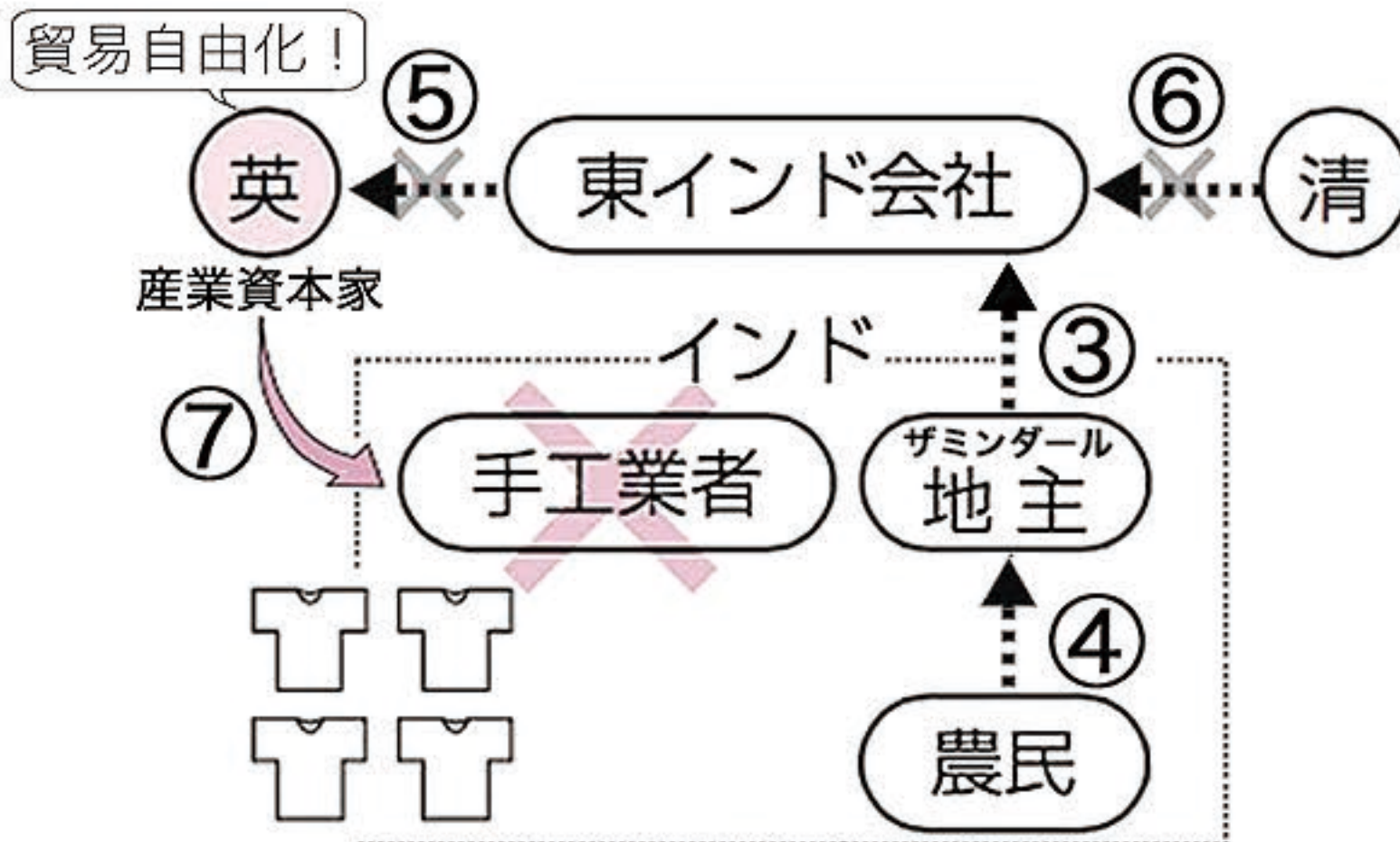
プラッシーの戦い(1757)後



- ① _____ 独占権 } エリザベス1世
② _____ 独占権 } の特許状(1600)
③ _____ 権 : ムガル皇帝から獲得(1765)
④ _____ 制 : ベンガルの地主制
- ※ライヤットワーリー制 : 南インドでは農民から直接徴税

(解答) ① インド貿易 ② 中国貿易
③ 徴税 ④ ザミンダーリー

インド貿易の自由化(1813)後



インドの主な貿易相手国と貿易収支

	a	b	c	d
1828年度	18.9	21.0	4.8	4.5
1834年度	13.9	31.4	3.2	2.7
1837年度	15.1	40.6	7.2	3.0
1839年度	25.4	10.1	5.7	9.0
1850年度	-2.4	53.6	1.8	2.2
1860年度	-57.1	102.5	6.4	5.6

(単位 百万ルピー)

⑤ インド貿易の自由化(1813)

⑥ 中国貿易の自由化(1833)

⑦ 機械製綿布の流入

問 インド大反乱にいたるイギリスのインド政策の展開について、以下の語句を用いて、120字以内で説明しなさい。
徴税権 貿易独占権

イギリス東インド会社の業務

	いつから	いつまで
インド貿易独占権	1 _____ の	1813 英議会在が廃止(③ _____ の要求)
中国(茶)貿易独占権	特許状(1600)による。	1834 英議会在が廃止。
インドでの徴税権 (インド統治権)	2 _____ の戦い(1757)後、 ムガル皇帝から(1765) ※	4 _____ (1857-)の責任を問われ、 1858 東インド会社 5 _____。

1 エリザベス1世 2 プラッシー 3 産業資本家 4 インド大反乱(シパーヒーの反乱) 5 解散

※ベンガル太守を継いだミール=カーシム(ジャッファールの甥)はイギリスから離反し、ムガル皇帝を擁して挙兵したが、ブクサールの戦い(1765)で敗北。ムガル皇帝は、ベンガル・ビハール・オリッサの徴税権をイギリス東インド会社に与えた。

インドの独立運動

1877-1947 英領インド帝国(首都:カルカッタ⇒デリー)

☆インド民族主義の覚醒…民族資本の成長、英語の公用語化。

⇒ 寡婦殉死の廃止運動(ラーム=モハン=ローイ)、富の流出論(ナオロジー)。

1885 ボンベイに¹ 設立:総督の諮問機関。⇒ インド最大の政治結社² の成立。⇒ ³ ら急進派の台頭で、反英姿勢を強める1905 総督⁴ の⁵ 令。

: 反英運動の根拠地を2州に分け、宗教対立をあおる。

1906 国民会議派⁶ 大会: 4綱領を採択。①英貨排斥(ボイコット) ②国産品愛用 (⁷)③自治 (⁸) ④⁹1906 ¹⁰ 設立: 親英ムスリム結社。

⇒ 大戦中、オスマン帝国の呼びかけに応じ、反英に転ず。

1916 ラクナウ協定: 会議派と連盟が、自治権要求で協調。

⇒ 英(インド担当相モンタギュー)は戦後のインド自治を約束(17)。

1919 ¹¹ 法 総督独裁下の形式的自治。1919 ¹² 法: 反英運動弾圧、裁判なしで投獄。⇒ ¹³ 事件: 英軍が市民集会に発砲。

⇒ 1500人が死傷。各地で反英暴動。ガンディー帰国。

1919- 非暴力・不服従運動 (¹⁴): ¹⁵ が指導。大衆動員でストライキ、英貨排斥。

⇒ 国民会議派のなかで、完全独立を主張する左派が台頭。

1929 国民会議派¹⁶ 大会: ¹⁷ が議長。⇒ 英からの完全独立 (¹⁸) を決議。1930 ガンディーの¹⁹ : 専売への抗議。

⇒ 第2回非暴力・不服従運動: 英貨排斥、徴税拒否。

1930-32 ²⁰ 会議: 英(マクドナルド内閣)がロンドンで開催。

⇒ ガンディーとの妥協をはかるが決裂⇒再び運動を弾圧。

35 ²¹ 法: 州政府に責任内閣制を導入。

⇒ ベンガル・パンジャブなどでムスリム連盟の州内閣が成立。

40 ムスリム連盟がパキスタンの分離独立を要求。

1875 スエズ運河買収。

1899- 南ア戦争。

1904- 日露戦争。



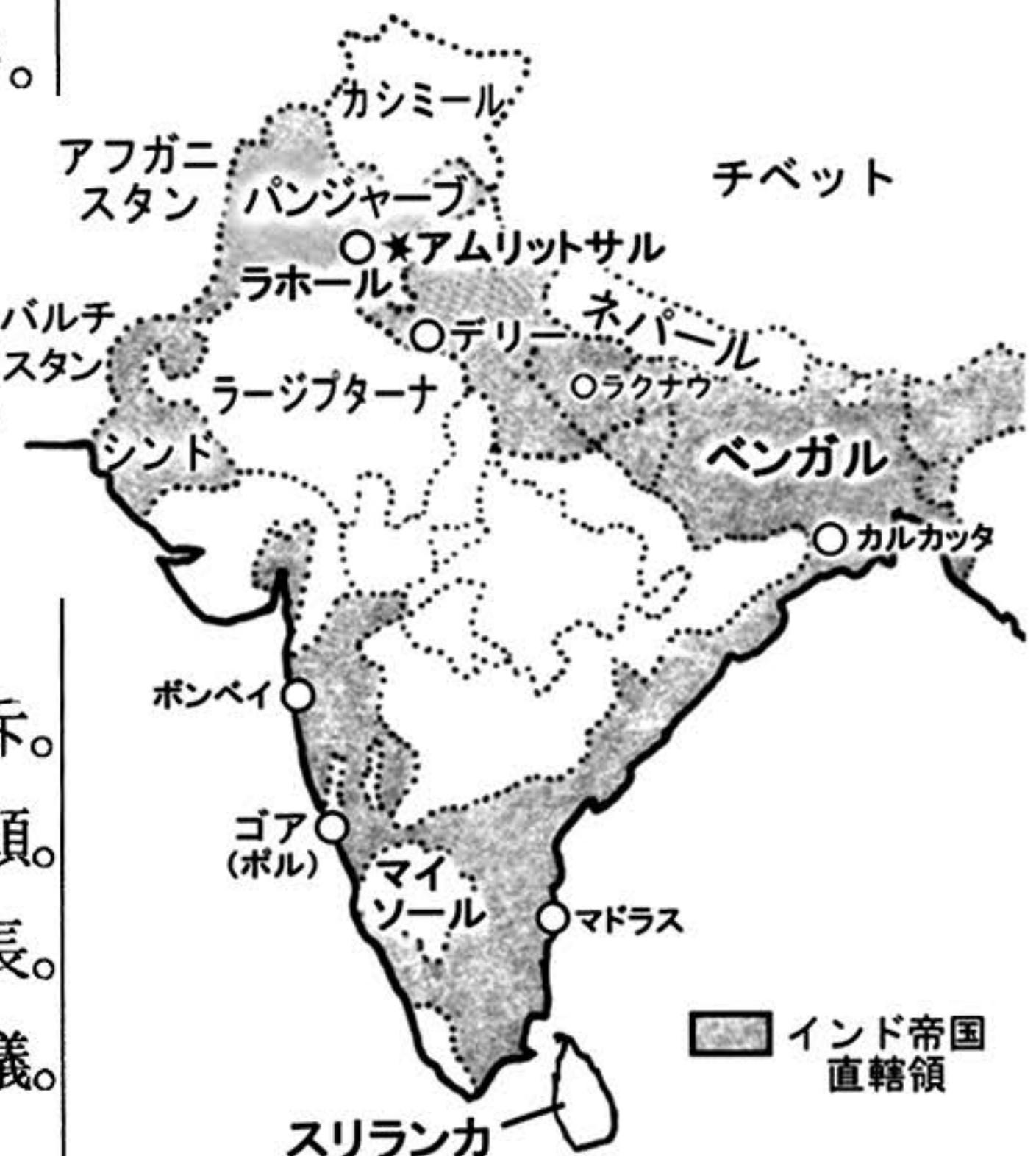
ティラク



ネルー

1906 英露協商。

1914- 第一次世界大戦。



インドの独立運動

1 インド国民会議

2 国民会議派

3 ティラク

4 カーゾン

5 ベンガル分割

6 カルカッタ

7 スワデーシ

8 スワラージ

9 民族教育

10 全インド

=ムスリム連盟

11 インド統治

12 ローラット

13 アムリットサル

14 サティヤーグラハ

15 ガンディー(ガンジー)

16 ラホール

17 ネルー

18 プールナ=スワラージ

19 塩の行進

20 英印円卓会議

21 新インド統治

日露戦争後のインド

英国

インド
総督



1. _____ 令
(1905)で対立を煽れ!

1906-

全インド=ムスリム連盟

少数派の
権利を守れ!



国民会議派

1906

2.

大会



3. _____ (自治)
4. _____ (国産品)
英貨排斥、民族教育



▲ サティ (寡婦殉死) とラーム=モーハン=ローイ



(解答)

- 1.ベンガル分割 3.スワラージ
- 2.カルカッタ 4.スワデーシ

第一次大戦後のインド

英国

インド
総督

独

オスマン

ムスリム連盟

英国に対し
ジハードを!

カリフ擁護!
(ヒラーファト)

5. _____ 法:形だけの自治。
6. _____ 法:反英運動を弾圧。

(1919)

7.

事件

(1919)

国民会議派

1919

8.

大会



ガンディー
の運動

完全独立!
9. _____

非暴力・不服従

10.

⇒塩の行進 (1930)

日露戦争後のインド独立運動の展開について、以下の語句を用いて、120字以内で説明しなさい。
スワラージ ティラク
ベンガル

(解答)

- 5.インド統治
- 6.ローラット
- 7.アムリットサル
- 8.ラホール
- 9.プールナ=スワラージ
- 10.サティヤーグラハ



▲ 塩の行進(1930)

第一次世界大戦後のインド独立運動の展開について、以下の国を用いて120字以内で説明しなさい。
サティヤーグラハ 州議会
ネルー ローラット法

インド帝国

A インド統治法(1919)

B 新インド統治法(1935)

皇帝
(英王)

任命

A

総督
(英の軍人)

任命

州知事

↓任命

内閣

×選べない

議会

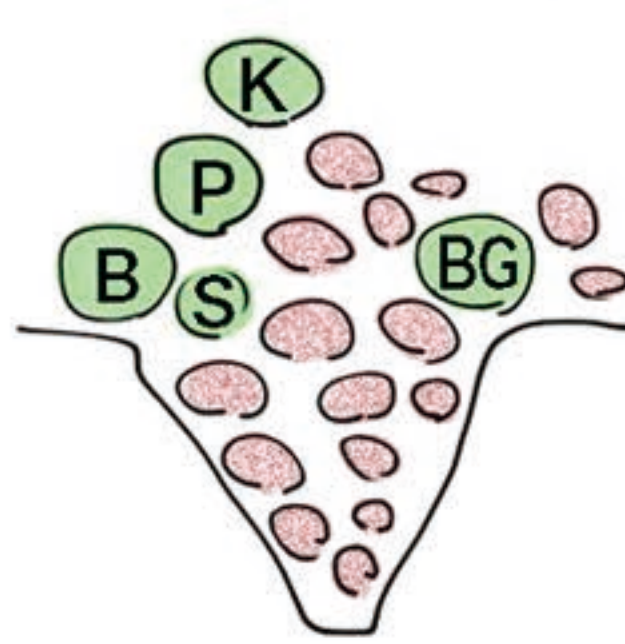
B

州内閣

↑選出

州議会

新インド統治法(1935)による州議会選挙の結果



● 国民会議派
● ムスリム連盟

- K カシミール州
- P パンジャーブ州
- S シンド州
- B バルチスタン州
- BG ベンガル州

ムスリム国家
パキスタンの
分離独立へ



ジンナー



▲ インド皇帝ヴィクトリア